



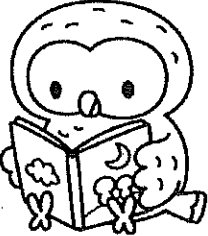
11月15日は「七五三」です。以前に比べると「七五三」を耳にすることは少なくなったような気がします。「七五三」は宗教行事ではありません。そもそもは中国から伝わって、その後民間行事として広がったようです。古くは平安時代に、3歳は男女ともに髪を伸ばし始める「髪置き」という儀式があり、5歳は男の子が初めて袴を着る「袴着^{はかまぎ}」の儀式が行われ、そして7歳は女の子が初めて帯を締める「帯解き^{おびと}」の儀式が行われました。日にちについては、江戸時代の文書に陰暦の11月の初めから下旬までとあり、特に11月15日と決まっていたわけではないようです。

「七五三」はこどもの成長期の一つの節目に、今後の成長の無事を祈り、健康を願うために、土地の氏神などに参拝する風習、日本の文化です。日本では古来から1, 3, 5, 7, 9などの奇数をめでたい「陽数」と考え、その重なっている月日が節句（ひな祭り3月3日、端午の節句5月5日、七夕7月7日など）として祝われましたが、その中の三つを特に取り上げるようになりました。七五三とは実は注連縄^{しめなわ}のことです。日本のキリスト教大学の草分けである同志社大学の創立者「新島 襄」の幼名は「七五三」と言います。おそらく新島 襄の親が彼の成長を願って付けた名前なのでしょう。現在では満年齢で三歳を男児と女児、五歳を男児、七歳を女児を晴れがましく着飾らせて宮参りをし、千歳飴を持たせて記念の写真を撮るなどが一般的でしょうか。

キリスト教にはそのような行事はありませんが、幼いときから信仰的教養を身につけさせることに熱心でした。日本の私学にミッションスクールが多い所以です。

「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることはないであろう。」

箴言22章6節

2024 年度主題	さあ、漕ぎだそう 奏でよう	11月主題	感謝しつつ
今月の聖句	「愛は、すべてを完成させるきずなです。」 コロサイの信徒への手紙3章14節		
目 標	 ☆つくし組(1歳)…生活の中で、やりたいことにじっくり取り組み、関り合う。 ☆すみれ組(2歳)…生き物や植物、落ち葉など秋の自然に触れる。 ☆むぎグループ…季節の変化を肌で感じ、秋の自然に触れ合い親しむ。秋の恵みに感謝する。 ☆りすグループ…手洗い、うがい、衣服の着脱を通して健康に過ごす。身体を動かして体力もつけていく。秋の実りや豊かな恵みに感謝して過ごす。 ☆きりんグループ…気温の変化に応じて自ら衣服の調節を行なう。秋の虫や植物、食べ物などに興味を持つ。		